

社会人になって

池田, 俊一郎

(出版者 / Publisher)

法政大学国文学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

53

(開始ページ / Start Page)

81

(終了ページ / End Page)

81

(発行年 / Year)

1996-03-24

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00019882>

社会人になって

池田 俊一郎

社会人になって一番変わったことといえ
ば、生活が実に規則正しくなったことである。

学生時代、夜中にアルバイトをして一睡も
しないまま大学に来て、半分眠りながら（時
には熟睡しながら）授業を受けるといふ不埒
な生活を続けていた私である。

それが今や、前の日にどんなに遅く寝ても
朝6時には起床し、7時には家を出て、8時
には会社に着くというスケジュールをきつち
り守っている。

社会人になる前は、夏休みにインドひとり
旅などをしていた自分に、こんなきちんとし
た生活ができるのだろうか、あつさり寝坊し
て、頭を掻きながら出社して、上司に怒鳴ら
れるといったダメ社員になってしまうのでは
ないかなどと、結構本気で心配していたのだ
が、これがやってみると案外できるものであ
る。ただ、規則正しいのはいいのだけれども、
いつも時間に追われているような気がしてし
まう。仕方のないことなのだが。

私は今、社内健康保険組合という部署で

働いている。何をやっているのかというと、
一言で説明するのは難しいのだが、社員の健
康管理と医療費等の支払いである。

一分一秒を争うような仕事内容ではないの
で、遅くまで残業ということもあまりない。
だいたい月単位のローテーションで仕事が進
んでいくので、それを頭に入れながら仕事を
すればいいのである。

相当気合いを入れて入社したので、最初は
何だか出鼻をくじかれたような気もしたが、
今は、まあそんなに急ぐこともないかと思
直している。私もしばらくすれば調査や営業
部門に異動になるだろうし、そうしたら今と
比べものにならないぐらい忙しくなるのは解
っているのだ。

今はその時のための準備段階なのである。
だから日々の業務だけでなく、他の知識も吸
収しなければならぬ。社会人は毎日が勉強
なのである。

（一九九五年卒・帝国データバンク勤務）

ざるをえないことになってしまいました。（余
談ですが、この時の大雨は稀に見る「雨男」
のこの私が同伴していたせいかもしれませ
ん）このとき私は、既に卒業した身でありな
がら、高草先生のご説明、つまり講義を無料
で拝聴できる（ツアアの参加費は別として）
という機会に恵まれたわけですが、それだけ
にこの初仕事における緊張と不安と、そして
失態に対する自己嫌悪とあまり集中できな
かったことが悔やまれます。まず事態を大局
的に把握すること、今何が起っているのか、
何が必要なのか、そしてそのために今すべき
ことは何なのか、とういことを認識する能力
が自分には欠けているのだということは今回
の初仕事で痛感させられました。

今は机上での書類整理が仕事のメインとな
っていて、どちらかというところこの認識能力を
必要とする仕事とは対照的ですが、国文学会
の役員としてこれらすべての仕事をそつなく
こなせるようになったとき、日文の研究室に
ある職場の専門的な空気を吸いながら、しか
しスペシャリストではなくむしろゼネラリス
トとしての素質が開花していくような気がす
るのです。

（一九九五年卒・国文学会事務局）